

# 古典芸能研究センターからのお知らせ



神戸女子大学古典芸能研究センター研究資料集 2

## 『絵入謡本と能狂言絵』 平成30年11月刊行

古典芸能研究センターでは、学内外の貴重資料を紹介する「神戸女子大学古典芸能研究センター研究資料集」を平成30年3月に創刊しました。

第1冊目の『説経稀本集』に続き、第2冊目となる『絵入謡本と能狂言絵』は、古典芸能研究センターと本学図書館が所蔵する能・狂言を描いた絵画資料から、特に貴重な3点をカラー図版と解題・翻刻で紹介しています。  
(思文閣出版 本体価格4,200円)



### 企画展「能・狂言絵の世界」開催

『絵入謡本と能狂言絵』の刊行にあわせて、平成30年9月18日（火）から10月31日（水）まで、古典芸能研究センター展示室で企画展「能・狂言絵の世界」を開催し、この本に収録した絵画資料を中心に、古典芸能研究センターと本学図書館が所蔵する能・狂言絵の名品を展示しました。



### 第50回 コスモス祭参加 「能・狂言絵の世界」展開催

さらに、11月3日（土）と4日（日）には、第50回大学祭（コスモス祭）に参加して8年ぶりに須磨キャンパスでも本格的な展示を行い、本学学生や教職員はもちろん、学生の家族や他大学の学生、近隣にお住まいの方々など、大勢の見学者を迎えました。2日目は、会場近くの講義室で、『絵入謡本と能狂言絵』の監修をつとめた神戸女子大学文学部 樹下 文隆教授（古典芸能研究センター兼任研究員）による講演と、展示を企画した長田 あかね非常勤研究員による資料紹介を行い、学生から研究者まで、幅広い層の出席者が真剣に聴講していました。





## 京都駅ビル「京都美風～古典芸能を楽しもう！能・狂言の世界へようこそ」協力

京都駅ビルのインフォメーション前で、平成30年8月25日（土）から9月21日（金）まで開催された展示「京都美風～古典芸能を楽しもう！能・狂言の世界へようこそ」に、古典芸能研究センター所蔵の能舞台の模型を出品しました。この展示は、京都駅ビルで毎年催されている「京都駅ビル薪能」（平成30年9月2日開催）にあわせて、能・狂言の魅力や、パネルや映像、実際に舞台上で使用する能面や楽器、ARによる新たな観賞方法の体験など、いろいろな要素で構成された展示物で紹介する催しです。古典芸能研究センター所蔵の能舞台の模型は、四方から眺められるようにさまざまな展示物の中心にあるため特に人目を引き、見学者はもちろん、通りすがりの人の足も止めていました。



## 特別講座「祈りの芸能」

古典芸能研究センターでは、神戸女子大学・神戸女子短期大学オープンカレッジ秋期講座で特別講座「祈りの芸能」を開講しました。

### 特別講座「祈りの芸能」

**期間** 平成30年10月22日～11月26日 毎週月曜・全6回

#### 講座内容 1. 民俗芸能の祈り

川森 博司(古典芸能研究センター長・神戸女子大学文学部教授)

#### 2. 琉球の祈り

知名 定寛(古典芸能研究センター兼任研究員・神戸女子大学文学部教授)

#### 3. 中世芸能の祈り

樹下 文隆(古典芸能研究センター兼任研究員・神戸女子大学文学部教授)

#### 4. 京都の祈り

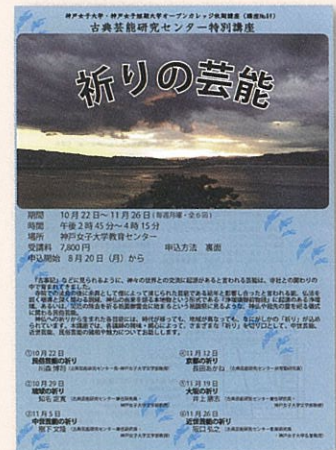
長田 あかね(古典芸能研究センター非常勤研究員)

#### 5. 大坂の祈り

井上 勝志(古典芸能研究センター兼任研究員・神戸女子大学文学部教授)

#### 6. 近世芸能の祈り

阪口 弘之(古典芸能研究センター客員研究員・神戸女子大学名誉教授)



## これまでの展示

神戸女子大学古典芸能研究センター研究資料集1『説経稀本集』刊行記念展示  
企画展「説経稀本展 -森修文庫・志水文庫・阪口弘之氏蔵本から-

**期間** 平成30年4月16日（月）～6月15日（金）

版木と近代の木版本 -檜書店旧蔵の版木から-

**期間** 平成30年7月2日（月）～8月31日（金）

仏教版画の群像 -如来・菩薩・羅漢-

**期間** 平成30年11月12日（月）～12月27日（木）

志水文庫の旧蔵者で本学名誉教授の信多純一先生は平成30年10月31日にご逝去されました。謹んでお悔やみを申し上げます。





## 科学研究費助成事業に採択された研究紹介

## 地域母子保健における 周産期うつ病の予防的介入に関する研究

研究期間：平成 27～30 年度  
研究種目：基盤研究 (C)

神戸女子大学 看護学部 看護学科 教授 玉木 敦子



近年、妊娠期にも3～6%の女性が大うつ病性障害に罹患しており、また50%の産後うつ病は妊娠期から発病して移行するなど、周産期メンタルヘルスに関する新たな知見が報告されています。また妊娠期の不安、抑うつ、ストレスが児の神経発達や行動に影響するという大規模調査の結果も示されており、妊娠期からのメンタルヘルス支援の重要性がより高まっています。

本研究は、「周産期うつ病予防のための地域母子保健・精神看護連携モデル」を開発し、その効果を検証することを目的としています。この研究は、心理社会的ハイリスク要因が認められる妊産婦を対象として妊娠期から産後まで継続して支援すること、自治体における地域母子保健システム(母子手帳の交付、新生児訪問、母子健康診査など)を活用すること、介入のプロセスで訪問者である助産師や保健師と精神看護を専門とする看護師が連携すること、これらの3つを特徴としています。

本研究では、まず「周産期うつ病予防のための地域母子保健・精神看護連携モデル」の開発に取り組みました。地域母子保健に携わる看護職を対象とした面接調査からは、保健師が母親との対応の中で困難感や負担を感じており、

保健師への心理的支援、精神看護の知識と技術の修得、専門家や関係機関との連携強化というニーズを持っていることが示されました。また産後うつ病から回復した女性を対象とした面接調査から、産後うつ状態の母親は、看護職に対し、専門職としての知識や技術に基づいたケアとともに、母親への支持や思いやりのある態度を求めていることが認められました。これらの調査結果と国内外の先行研究から、看護職(保健師、助産師)が心理社会的ハイリスク妊産婦に行う介入内容と方法、および精神科看護師が提供する教育訓練内容、介入中の看護職への支援方法(メンタルヘルスコンサルテーションなど)を検討し、介入モデルを作成しました。

次にそのモデルに基づいた介入をA地区で実施し、介入の効果を検証しました。介入効果を産後1ヶ月時点と産後4ヶ月時点における抑うつ得点によって評価したところ、介入モデルのうつ病に対する予防効果が示唆されています。今後は、妊産婦への心理的効果をさらに検証するとともに、介入に携わった看護職を対象に面接調査を実施し、開発したモデルの看護職への教育的効果や意味について検討する予定です。



第15回日本周産期メンタルヘルス学会学術集会で会長講演中の玉木教授。  
演題「妊産婦に「寄り添う」ということ」



「課題探求」の時間で、教員や学生と話し合う玉木教授



神戸女子短期大学 幼児教育学科の学生 保育園でオペレッタ上演

平成30年8月7日(火) 神戸女子短期大学 幼児教育学科の桐原 美恵子教授の2年生のゼミ生9名が本学園の関連施設である神女中山手保育園の遊戯室で1歳児から5歳児までの子どもたちを前に、オペレッタ「たべたーい!びっくりケーキ」を上演しました。

神女中山手保育園の開設以来、短期大学の学生によるオペレッタ上演は、子どもたちが楽しみにしている恒例行事の一つになっています。

桐原教授のゼミでは、幼児が自分の体を自由に動かし、友達と一緒に動く楽しさや喜びを積み重ねていく保育を考え、「子どもと楽しむオペレッタ」をつくりあげることを通して、子どもの興味や関心、感性を育む保育者を目指しています。



上段：オペレッタに夢中の子どもたち  
下段：ハイタッチでお別れ

ゼミ生たちは年齢差のある子どもたち全てが喜びそうな演目を選び、大道具、小道具、衣装も自分たちで作りました。配役を決め役づくりに各自が取り組み、笑顔を決めきれないことを第一に、一つひとつの動きを大きく、感情を表現しながら演技を構成しました。時には子ども側の目線に立ってみるなどのチェックを重ねて発表の日を迎えました。

恐がって橋を渡れないゼミ生が演じるタヌキに、子どもたちは「がんばれ!」と声をかけたり、リズムカルな演技をまねて一緒に動いたり夢中になって観てくれました。

オペレッタの終演後は、演目の「びっくりケーキ」にちなんだケーキをつくる手遊びも行い子どもたちと触れ合いました。

ゼミ生たちは、同年5月末から本格的にオペレッタに取り組みましたが、教育実習も始まり練習時間の確保も難しい中、協力して上演にこぎつけました。子どもたちの笑顔と拍手に達成感を感じ、保育士や幼稚園教諭として将来活躍できる自信もついたようです。

オペレッタ  
「たべたーい!びっくりケーキ」  
のストーリー

こぐまのクータはおばあちゃんのケーキを食べに  
お友達のタヌキのポン、ウサギのミミ、リスのキキと一緒にでかけます。  
ぐらぐらゆれるつり橋を渡ったり、山火事にあたりと難関をみんなで乗り越え、  
おばあちゃんの家に着。  
期待していたケーキは、とても大きな「びっくりケーキ」。みんなでおいしく食べました。



オペレッタを上演したゼミ生と桐原美恵子教授(後列右)



つり橋を恐る恐るわたるタヌキのポンに子どもたちから「がんばれ!」の声援



## 神戸女子大学大学院看護学研究科を開設

学校法人行吉学園は、平成31年4月に神戸女子大学大学院看護学研究科 看護学専攻博士前期課程及び博士後期課程を開設します。

本研究科は、地域で暮らす人々の生活を支え健康課題に対応するため、自立して活躍できる高度な看護実践能力を有する者、実践に役立つ看護ケアを開発する者、コミュニティ・ケアシステムを生み出すことができ、次世代の看護を担う教育者・研究者の育成を目指すことを目的としています。

### 第4回 神戸女子大学看護セミナー

## 神戸女子大学大学院看護学研究科開設記念 科学史家・科学哲学者 村上 陽一郎氏を迎えて

平成30年9月1日（土）ポートアイランドキャンパスにおいて、「コミュニティ・オブ・プラクティスー実践科学としての看護学に期待することー」というテーマで第4回神戸女子大学看護セミナーを神戸女子大学看護学部主催で開催しました。講師は、科学史家・科学哲学者で前東洋英和女学院大学学長、東京大学名誉教授、国際基督教大学名誉教授の村上陽一郎氏です。学内外から研究者、教職員、学生など約80名が参加し、村上氏の「実践科学としての看護学に期待すること」と題された講演及び看護学部長の野並葉子教授との対談に耳を傾けました。

今回の看護セミナーが開催された前日の8月31日（金）付で看護学研究科看護学専攻博士前期課程及び博士後期課程の設置が認可されたことより、神戸女子大学大学院看護学研究科開設記念のセミナーとなり、講演に先立って村上氏からもお祝いの言葉を頂戴しました。

講演で村上氏は、医療は科学や技術が関与するが、それだけでは答えを見つけない問題領域であり、医療者と患者双方の心理的な要因や患者個人の特性が治療効果に正負に働くことを、ある看護学生の実習中のエピソードなどを例にあげて説明。医療における「判断」は科学的根拠を超えた範囲で判断が求められる場面がさまざまに想定され、とりわけ看護や介護では他者の理解が問題となっており、村上氏は、他者が感じている

感情や問題を理解する能力「共感 empathy」を持つてほしいと述べました。最後に「ナラティブ・アプローチ」について言及、医療者側の根拠に基づく判断と一方向の働きかけではなく、患者側の医療への自発的な介入や医療者と患者の間の「共感」を土台とする「協働作業」を考えるべきであると話されました。

講演後は看護を「科学」と「実践」という視点から捉えた村上氏と野並学部長による興味深い対談が行われました。

セミナーの最後には質問の時間が設けられ、熱心な参加者からの質問が相次ぎました。

大学院看護学研究科が設置される看護学部にふさわしい内容のセミナーとなり、看護・医療に携る人はもとより、参加した全ての人にとって、医療の在り方や看護実践について深く考える機会となりました。



看護セミナーの様子



講演中の村上陽一郎氏



村上陽一郎氏と看護学部長の野並葉子教授との対談の様子



質問にこやかに応える村上陽一郎氏



## 「神明きっちゃん」共同企画 「脱脂米糠」を使ったレシピを開発

神戸女子大学大学院健康栄養学研究科 健康栄養学専攻（修士課程）の大学院生と健康福祉学部健康スポーツ栄養学科の学生が、神明グループの株式会社神明きっちゃんが開発した「脱脂米糠」を使ったメニュー「腸美人ランチ」を考案し、同社のアンテナショップで発売されました。

健康栄養学研究科長である吉川 豊教授を通して、同研究科の大学院生に「脱脂米糠」を使ったレシピの共同開発の依頼があり、米ぬかに含まれる栄養成分と疾患予防について研究している吉川研究室の学部3年生のゼミ生1名も加わり、計6名で新メニューの開発に取り組みました。

サラサラしたパウダー状の「脱脂米糠」は、和食から洋食まで幅広い料理に使えると考えた学生たちは各自が2品以上のレシピを考えることとし、主食や主菜、副菜などを自由で柔軟な発想で計14品の料理を自ら調理して提案しました。

このメニューが発売された「五穀豊穡 米処 穂」（ごこくほうじょう こめどころ みり）は、注文時にお米と具材、塩を選び、スタッフが目の前で握る「おにぎり」専門店です。お米の美味しさを発信するという同店のコンセプトに合う料理が、試食会2回を経て決まりました。

「腸美人ランチ」には、「脱脂米糠」が12g使用されています。これは、玄米ご飯3杯分の米糠に相当する量で、レタス1個分の食物繊維が含まれています。「食物繊維や体に必要なミネラルを摂取し、腸からキレイになろう」という思いで、「腸美人ランチ」という名前が付けられました。

今回の共同企画に参加した学生たちは、「自分たちが考えた料理が、プロの料理の技でさらに美味しく生まれ変わり、商品としてのバランスの取れたメニューになったことに感激しました」「神明きっちゃんの社長の講義を聞き、お米に含まれる栄養や日本の食文化についても学ぶことができました」「レシピ考案からポップの作成まで携わることができ、とても良い経験ができました」と感想を述べています。



商品名 腸美人ランチ

- 米ぬか和風はんぱーぐ
- 米ぬか塩むすび・肉みそ焼きおにぎり
- 米ぬかのお味噌汁
- おからと小松菜のそぼろ

店頭販売期間 平成30年8月6日(月) から1ヶ月間

価格 820円(税込)

発売店舗名 五穀豊穡 米処 穂

### 脱脂米糠とは

米ぬかから油を搾った後の残渣、米油製造時の副産物。米特有の栄養成分である「ガンマオリザノール」をはじめ、タンパク質、食物繊維、ビタミン・ミネラル類などを豊富に含む。これまで米ぬかが食品として利用されることはほとんどなく、神明きっちゃん独自の圧搾製法により生成された「脱脂米糠」は、新素材の食用ぬかとして注目を集めている



吉川豊教授とメニューを考案した大学院生と学部生



「五穀豊穡 米処 穂」での試食会の様子



## 2018 オックスブリッジ英語サマースクール開催

イギリスの名門、ケンブリッジ大学とオックスフォード大学の学生が組織するOxbridge Summer Camps Abroadの学生を講師に迎えて、「オックスブリッジ英語サマースクール」を2018年7月23日(月)から8月3日(金)の期間、神戸女子大学須磨キャンパスで実施しました。オックスフォード大学からはロバートさん、ケンブリッジ大学からはヘレナさんに来ていただきました。

英語英米文学科、国際教養学科、史学科、教育学科、家政学科より20名の学生が参加して語学力の上達を目指しました。

このサマースクールの授業はすべて英語で行われ、リスニング力、スピーキング力の向上が望めるだけでなく、日本とイギリスの文化、生活習慣の違いなども同世代の学生から学べる魅力があります。同世代が興味、関心を持つ内容から国際的な話題についても授業に取り入れた多様なレッスンが展開されました。

本学の学生も日本の世界文化遺産、言語、伝統的な衣食住などについて英語でプレゼンテーションを行い、弓道、剣道も体験してもらう機会を設け交流を深めました。

このサマースクールは短期間ですが、楽しみながら同世代の学生と英語でコミュニケーションがとれ国際交流ができる、参加した学生には毎年好評です。



レッスンの様子



弓道体験と剣道体験

ロバートさんとヘレナさん

## 卒業研究 フィリピンの漁村で住民の健康栄養調査実施

神戸女子大学健康福祉学部 健康スポーツ栄養学科の松本 衣代准教授(専門:国際栄養)の研究室では、世界のさまざまな人々の地域別の食生活を調査し、人々の健康への影響を研究しています。

松本准教授と4年生のゼミ生6名が2018年8月19日から29日の期間、フィリピンのセブ州マクタン島コルドヴァの漁村地域とダバオ市にある児童養護施設で健康栄養調査を行いました。

マクタン島では零細漁民地域を対象として、現地保健省の医師と看護師の主導のもと、住民の健康栄養調査として身長、体重、推定ヘモグロビン濃度、血圧、上腕周囲径、上腕皮下脂肪厚の測定、および食物頻度摂取調査を行いました。

ダバオ市では、児童養護施設を訪問し、現地の食材を使い「豚肉の生姜焼き」とスープを作り、子どもたちが大変喜ばれました。また、子どもたちが自身で健康に留意するように働きかける健康教育の一環として、身体計測会を行い児童養護施設のスタッフにも感謝されました。

今回の調査・研究を通して、両地域で得た結果は、卒業論文にまとめられ、海外の食生活の実態を知る上での貴重な資料となりました。



松本衣代准教授(後列左)とゼミ生、コルドヴァ保健所の医師、看護師と記念写真



火をおこして調理

ダバオ市の児童養護施設  
ごはんに豚肉の生姜焼きと  
スープを盛りつけた給食



上腕周囲径メジャーに興味津々な子どもたち



## インドネシア ウダヤナ大学 留学生紹介

2017年9月から神戸女子大学文学部 日本語日本文学科で学んでいた、インドネシアのウダヤナ大学 文学文化学部 日本語科に在籍していたMADE YANI ANGGARAWATI (マデ ヤニ アンガラワティ以下ヤニ) さんが、2018年8月に1年間の留学を終えて帰国しました。

インドネシアでは、英語を話す人は珍しくありませんが、日本語も話せる人はまだ少なく、ヤニさんは、日本語を自由に操る力を身につけたいと考えていました。日本の文化を直に触れたいとも思い、サブカルチャーにも強い関心を持っていたので1年間の留学を決めました。

インドネシアと日本とは今後ますます交流が深まり、看護師、介護福祉士の資格取得を目的に来日するインドネシア人は増加する状況にあります。ヤニさんは母国で日本に来日する人々に日本語を教えらるる能力を身につけることを目標に、神戸女子大学では文学部日本語日本文学科に所属し勉学に励みました。

留学生を対象とした授業では、社会人として通用する話し方、聞き方を学び、社会生活のさまざまな場面で説明・交渉ができるコミュニケーション能力、時事問題をテーマにして読解力、作文力の向上に力を入れました。同学科の日本語コースの授業も履修し、本学の学生とともに、日本語を外国人に教える方法も学びました。

安原 順子教授の指導の下で「少女漫画におけるフェミニズム文学批評—『会長はメイド様!』を対象に—」という表題の論文を書き上げ、日本の少女漫画におけるフェミニズム思想の分析をして、7月には同学科の教員や学生、中国からの留学生の前で流暢な日本語で留学の学修成果として発表しました。



ライブラリーcommonsでのヤニさん



留学生学修成果発表会



歓迎会でパリダンスを披露



作品の前に華道部の顧問の先生とヤニさん

中国からの留学生の前で流暢な日本語で留学の学修成果として発表しました。

授業以外でも積極的に日本文化に触れ、花が好きなヤニさんは華道部で生け花を学び、家政学部家政学科の授業で浴衣を縫い、着付けも自分でできるようになりました。

ウダヤナ大学にもどると12月に卒業するために卒業論文の仕上げに取り掛かりました。卒業後は、日本語を使える仕事について、インドネシアと日本をつなぐ架け橋となり友好の輪を広げていきたいと語っています。



中島實学長から修了証授与



修了式後の記念撮影。前列右が指導教員の安原順子教授



1983年	ハワイ大学(米国)
1993年	ケント大学(英国)
1997年	フライブルク大学(独国)
2000年	華南師範大学(中国)
2006年	オークランド工科大学(ニュージーランド)
2006年	ピッツァー大学(米国)
2010年	ウダヤナ大学(インドネシア)

2010年	西安工程大学(中国)
2010年	カセサート大学(タイ)
2010年	高麗大学(韓国)
2011年	チェンマイ大学(タイ)
2011年	カリフォルニア州立ポリテクニク大学ポモナ校(米国)
2014年	静宜大学(台湾)
2017年	アイルランガ大学(インドネシア)



## 神戸女子短期大学 「大学都市KOBЕ! 発信プロジェクト」に神戸女子短期大学が参加

平成26年度から始まった「大学都市KOBЕ! 発信プロジェクト」に平成30年度は神戸女子短期大学が参加しました。このプロジェクトは、全国有数の“大学都市”である神戸市が呼びかけて、市内の大学が持つ多様な教育・研究成果を大阪市北区のグランフロント大阪北館ナレッジキャピタルThe Lab.で発表するという取り組みです。

## 神戸女子短期大学

## 展示期間

平成30年  
8月21日(火)～9月17日(月・祝)

## 展示テーマ

「ポートアイランドから  
神女の学びを発信！」

神戸女子短期大学の3学科「総合生活学科・食物栄養学科・幼児教育学科」の地域に密着した学びや研究成果と図書館所蔵のターシャ・チューダー特別コレクションを展示しました。



3階ナレッジキャピタルThe Lab.にて、  
神戸女子短期大学の展示ブース「ポートアイランドから神女の学びを発信！」

神戸女子短期大学は参画した7大学とともに次の合同イベントにも参加しました。  
会場は、グランフロント大阪 北館 2階 ナレッジキャピタルThe Lab.内「アクティブスタジオ」です。

## ● 神戸8大学の魅力発信（展示・イベント）

各大学が思い思いの魅力を発信する、展示・イベントを開催。各大学が誇る特色ある研究成果や産学連携による商品開発事例などを紹介しました。

開催日 平成30年8月11日（土）・12日（日）

神戸女子短期大学 展示日：8月12日（日）

展示テーマ 「『シンジョ』ってどんなところ？」

総合生活学科の学生が作製したウエディング・ドレスと住宅模型の展示、食物栄養学科のオリーブオイルのテイスティング、幼児教育学科の学生が作製した指人形、モビールの展示を行いました。

食物栄養学科は、「KOBЕエコタウン・オリーブプロジェクト」<sup>(注)</sup> サポート事業者に登録されたことにより、「神戸KOBЕ deオリーブ！」をテーマにオリーブの実・葉・オイルの効果・効用をまとめたパネルも展示しました。産地や味わいの異なる3種類のオリーブオイルのテイスティング、オリーブの葉のお茶の試飲は大変好評でした。

来場者からは、「こんな素敵なウエディング・ドレスを学生さんがデザインから縫製までされたとは驚きです」「指人形はとてもかわいいですね」などの感想が聞かれました。



特別イベント：「『シンジョ』ってどんなところ？」展示の様子

(注)「KOBЕエコタウン・オリーブプロジェクト」…神戸市環境局は、神戸が日本で初めてオリーブ園が作られたことから、オリーブを活用してまちの緑化・美化、まちづくり活動を推進しており、神戸女子短期大学食物栄養学科は平成29年にサポート事業者として登録している



● 神戸の魅力発信—8大学から（公開講座）

各大学がリレー講義方式で神戸の魅力を伝える公開講座を開催。デザイン、食、国際都市など、各大学がさまざまなテーマの講義を通して、神戸の魅力を伝えました。

開催日 平成30年8月25日（土）・26日（日）

神戸女子短期大学 講演日：8月26日（日）

講義テーマ 「神戸と『食』」 講師 食物栄養学科 西川 貴子教授

食物栄養学科の西川 貴子教授が多国籍で多彩な食文化があふれる神戸と食の関わりとしてハラール食と「KOBEエコタウン・オリーブプロジェクト」に参加している活動を紹介しました。そして、図書館が所蔵する特別コレクション ターシャ・テューダーを紹介し、食物栄養学科の立場からターシャの食スタイルにスポットをあて、優れて学ぶべき点について講義しました。ターシャの食事は栄養バランスが良く手間ひまかけて作り、家族と一緒に美味しく食べていたこと、本物を大事にしていたことなど、同学科の推進している食育活動に通じるものがあると述べました。

西川教授の講演後、3階の展示会場前では総合生活学科プロジェクト演習の受講生4名による「ターシャ・テューダープロジェクト」のプレゼンテーションが行われました。

学生たちは、ターシャの名言や生き方を学び、心にゆとりを作ることを目的にこのプロジェクトを開始しました。

ターシャについて学ぶ過程で数々の名言に心打たれ、友人や多くの学生にもターシャの言葉で元気になってほしいという思いを込めて、ターシャの庭を模して作られた本学の中庭に名言の看板を設置したこと、看板が立てられると写真を撮る学生やSNSに投稿する学生が現れ、ターシャの名言やその存在が広がっていったことなどを報告しました。プレゼンテーションの終了後には来場者にも、ターシャの名言を書いた手作りのしおりを配付し喜ばれました。



西川貴子教授のリレー講義「神戸と『食』」の様子



「ターシャ・テューダープロジェクト」のプレゼンテーションの様子



ターシャ・テューダーの言葉が書かれた看板



プレゼンテーションした学生、講演者の西川貴子教授（前列右）、中川伸子副学長（後列左）、スタッフの教職員